

公益財団法人

京都府国際センター

Kyoto Prefectural International Center

NEWS

Vol. 82

2017年 春号

京都府国際センター設立20周年記念式典・フォーラムを開催

当センターは平成8年に設立され、平成28年に20周年を迎えました。それを記念して平成29年3月25日（土）にホテルルビノ京都堀川にて、京都府国際センター設立20周年記念式典・フォーラム「地域創生と多文化共生」を開催しました。123名の参加者があり盛会のうちに幕を閉じました。

式典では、まず、山田啓二会長（京都府知事）と尾池和夫理事長による開会のあいさつのあと、式典にご参加いただいた御来賓を代表して、近藤永太郎京都府議会議長にご祝辞を頂戴しました。

その後、日頃当センターの活動にご協力いただいている国際活動団体、ボランティア、賛助会員の皆様など49団体及び個人65名の方々を代表して京丹後市国際交流協会、京都にほんごRings、三共精機株式会社、株式会社フラットエージェンシー、京都府連合婦人会の5団体に感謝状が手渡されました。

最後に山田会長より尾池理事長と須藤副理事長にも感謝状が手渡されました。

今回の20周年記念式典・フォーラムでは日頃当センターにご協力をいただいている団体、個人や一般の方々が一堂に会しました。また、今回のフォーラムで当センターの活動がより一層理解できたとの声もあり、今後の活動にとっても非常に有意義なものになったと思います。

皆さまのご理解とご協力のおかげで無事に20周年を迎えられたことに深く感謝いたしますとともに、今後の活動にもご支援をいただければ幸いです。

*フォーラムにつきましてはセンターニュース2ページと3ページをご覧ください。



山田会長



尾池理事長



近藤府議会議長



目次

- 京都府国際センター
20周年記念式典について……1～3
- 協力団体紹介
日本語教室の声……………4
- センターからのお知らせ……………4

ウベ・ワルタ氏による 尺八パフォーマンス

記念フォーラムの前半にウベ・ワルタ氏の尺八パフォーマンスによる記念演奏&トークが行われました。ワルタ氏は尺八を都山流の井津清司氏に、能仕舞・謡・能面を金剛流・宇高通成氏に、パントマイムをロンドン・リンセイ・ケンプ氏に師事されています。35年以上にわたる日本滞在経験に基づく語りと演奏は、大いに会場を魅了しました。

演目

- a 日本の歴史 + 尺八の古典本曲「鶴の巣籠(つるのすごもり)」
- b 日本の山でゲルマンの女神の出会い「Ostara」オリジナル曲
- c 今住んでいる美山の自然と人の話「由良」オリジナル曲
- d Take five (cover)



基調講演「グローバル化と地域創生」～府民主体ですすめる多文化共生のまちづくり～

浜田 麻里 氏(京都教育大学教授)

基調講演では、京都教育大学教授浜田麻里氏に「グローバル化と地域創生」をテーマにご講演をいただきました。2060年までに日本の推計人口が8,674万人までに減少し、65歳以上の人口が39.9%に拡大して少子高齢化がより進む一方、1985年から2015年までの30年間で在留外国人が3倍近く増加し、今後も増加していくことが予想されます。地域社会もグローバル化の影響を受けざるを得ない状況の中で、府民主体の多文化共生のまちづくりを進めていくためには、あらゆる住民をまちづくりの

プロセスに巻き込むこと、住民が異性・異世代・異文化間のコミュニケーション能力を養い、多文化共生の担い手としての力量を鍛えることが益々重要になっていくということをお話しいただきました。



パネルディスカッション

コーディネーター: 浜田 麻里 氏(京都教育大学教授)

パネラー: タデウシュ・アダム・オジュグ 氏(京都府名誉友好大使、株式会社ニッポ代表)

増田 麻美子 氏(文化庁文化部長官補佐・日本語教育専門職)

近藤 徳明 氏(京都府国際センター事業課長・文化庁委嘱地域日本語教育アドバイザー)

浜田氏のコーディネートのもとパネルディスカッションでは、まず、京都府の国際化の現状と京都府国際センターの取組について発表がありました。平成28年末時点で府内の外国人は約54,000人で、国籍別で最も割合の高い韓国・朝鮮が年々減少する一方、その減少を補うように中国、ベトナムなどアジア圏

が増加。微減傾向にあった外国人住民数も平成26年から増加に転じており、永住者も8,000人を超え、この10年で1.5倍の数になっています。そのような状況でセンターでは多文化共生の推進に取り組んでおり、中でも日本語学習、災害時支援、教育、留学生事業について積極的に取り組んでいます。





養成・研修の内容などについて検討が行われるとのことでした。

オジュグ氏は外国人住民の視点から多文化共生について、留学生でもあった自身の体験も含めて、「外国人」と一括りに捉えるのではなく個人として接するのがよいことや、文化は変化していくもの

増田氏からは国としての日本語教育施策について発表がありました。文化庁では日本語教育の推進に係る論点整理がされており、今年度は日本語教育人材について求められる資質や能力、

なので日本人と外国人で新しい文化を創っていくことが必要であり、その際に互いのコミュニケーションが非常に重要だと指摘されました。

また、その後の討論では国の役割と

しての日本語教育や地域の国際化における京都府国際センターの位置づけ、外国人住民が安心して参加できる居場所としての地域日本語教室の意義などについて話し合われました。



感謝状贈呈団体・個人の紹介

当センターの活動には協力団体の協力が必要不可欠です。中でも特にご協力をいただいている団体・個人に感謝状を贈呈しました。感謝状贈呈団体・個人は以下の通りです。

【国際化協会】

綾部国際交流協会 様
木津川市国際交流協会 様
城陽市国際交流協会 様

宇治市国際親善協会 様
京丹後市国際交流協会 様
せいかグローバルネット 様

亀岡国際交流協会 様
京丹波町国際交流協会 様
南丹市国際交流協会 様

【日本語学習、防災、子どもの教育、国際協力、文化紹介活動】

京都「えき」日本語教室 様
公益財団法人京都YWCA APT 様
浜田 麻里 様
オフィス コン ジュント 様
「やさしい日本語」有志の会 様
特定非営利活動法人アクセス
—共生社会をめざす地球市民の会 様
C.P.I.関西教育里親会
京都・滋賀地域会 様
NICE日本国際
ワークキャンプセンター 様
特定非営利活動法人 道普請人 様
宇治てまりの会 様
墨染書道会 様

公益財団法人京都日本語教育センター—
京都日本語学校 様
京日会 様
京都府行政書士会 様
川久保 スミカ 様
特定非営利活動法人京都海外協力協会
(KOCA) 様
特定非営利活動法人JIPPO 様
公益社団法人日本国際民間協力会
NICCO 様
ルーテル教会「共に生きる」集い 様
おこしやす折り紙 様
日本伝統文化普及協力協会 様

京都にほんごRings 様
諏訪 喜栄子 様
渡日・帰国青少年(児童・生徒)のための
京都連絡会(ときめき) 様
特定非営利活動法人
サエア・ジャパン 様
特定非営利活動法人
テラ・ルネッサンス 様
ベトナムの「子どもの家」を支える会
京滋YOUの会 様
生け花紹介グループ(御幸遠州流) 様
京都きものを楽しむ会 様
紫の会 様

【留学生支援】

三共精機株式会社 様
シャヒード・ルパニ 様

株式会社フラットエージェンシー 様
谷川 拓巳 様

蒲 則男 様

【賛助会員】

団体賛助会員 11団体 個人賛助会員 59名

協力団体紹介

日本語教室の声



左: 松藤先生 右: Lee Chengさん



日本語クラスの様子

京都府国際センターの日本語教室で教えていらっしゃる松藤昌代先生（京都「えき」日本語教室代表）と冬期月木基礎クラスで勉強されていたTeoh Lee Chengさん（マレーシア出身）にお話を伺いました。

松藤昌代先生のお話：

日本語教室では、あいうえおをしっかり覚えてもらうことも重要ですが、異国の地で安心できる場を提供することも重要だと考えています。祇園祭や防災関連など、生活に密着した社会的文化的要素を授業に取り入れています。生徒だった人が、日本語教室に戻ってこれた通訳等を引き受けてくれたりするとき、その成長ぶりに感動することがあります。また、基礎クラスの最後の授業では皆さんにスピーチをしてもらうのですが、いつも素晴らしい出来です。一言でも日本語を喋れるようになって、日本での生活が出来るようになり、日本の情報を発信出来る人になってほしいと願っています。

Teoh Lee Chengさんのお話：

日本語に対する感想は、難しいけれどおもしろいと思っています。「買いますか?」「書きますか?」など動詞の活用形が似通っていて区別しづらいです。けれども毎日約30分勉強して頑張っています。日本語のクラスメートとも日本語が共通の言語なので、日本語で会話をして友人を作っています。他にも先生、ご近所さん等と日本語でコミュニケーションをしています。夏休みには、今カナダにいていつも英語で会話をしている息子が戻ってくるので、京都府国際センターの日本語教室で勉強してほしいと思っています。

京都府国際センターからのお知らせ

パンフレット「バイリンガルを育てる」

当センターでは、京都教育大学の協力を得て、2言語以上の環境で子育てを行う保護者対象の多言語パンフレットを作成しています。新たにベトナム語版が加わりましたので、興味のある方は、当センターのウェブサイトをご覧ください。

言語：

英語
中国語
フィリピン語
インドネシア語
ベトナム語

内容：

- ①バイリンガルのすすめ
- ②子どもの発達と言語には深い関係があります。
- ③親子のコミュニケーションが大切です。
- ④バイリンガルは家族の毎日の習慣で育ちます。
- ⑤それぞれの家庭で、子どもの言語と教育について考えましょう。
- ⑥日本語以外の言語で話せる仲間を作りましょう！

ダウンロード：

<https://www.kpic.or.jp/njfumin/kyoiku/bilingual.html>



相談窓口

ビザ相談

外国人住民の出入国管理に関する手続き等について、相談に応じ問題解決を支援しています。

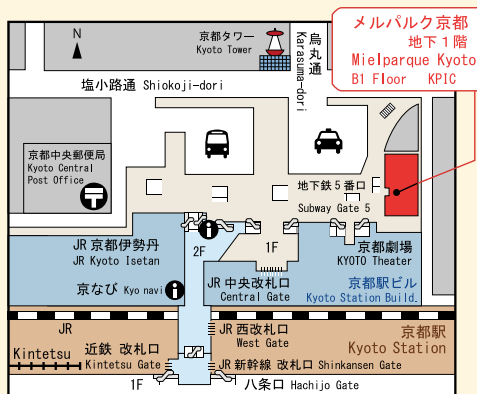
協力：京都府行政書士会

場所：京都府国際センター

日時：毎月第4日曜日 13:00~16:00

料金：無料

※必要な場合は日程調整の上通訳の手配が可能です。
※相談を希望される方は事前に予約を行ってください。



公益財団法人 京都府国際センター

〒600-8216 京都市下京区東塩小路町676-13 メルパルク京都B1F (JR京都駅前 北口東側 (京都劇場側))

Tel : 075-342-5000

Fax : 075-342-5050 E-mail: main@kpic.or.jp

<http://www.kpic.or.jp/>

facebook <http://www.facebook.com/kpic.kyoto>

開館時間 / 午前10時~午後6時

休館日 / 毎月第2・第4火曜日、祝日、年末年始 (12/29 ~ 1/3)

公益財団法人 京都府国際センター NEWS Spring 2017 平成29年春号 第82号

編集・発行 / 公益財団法人 京都府国際センター Kyoto Prefectural International Center

